



治療スペースやケアのためのスペースは明るく開放感がある



調度品一つひとつにも工夫が凝らされ、ゆったりとくつろげる待合室

information

併設：さんだ口腔介護支援センター  
 診療科目：歯科、小児歯科、矯正歯科  
 診療時間：月・火・木 9:30~12:30/14:00~19:30  
 水 9:30~12:30※  
 土 9:30~12:30※  
 ※水午後、土午後オペ日  
 休診日：日・祝  
 〒669-1546 兵庫県三田市弥生が丘1-11  
 フラワータウン駅ビル 705号  
 TEL.079-562-8471 FAX.079-562-8472  
 http://www.yoshihara-shika.jp/

医療法人社団 健歯会

# 吉原歯科医院

## 本当に必要な治療を見据えた訪問歯科診療で、患者の尊厳を守る

### 生涯にわたる食べられる喜びを

高齢化が進む昨今、日本の医療における在宅医療の重要性がますます高まっています。その流れは歯科医療でも例外ではなく、要介護状態などで通院が困難な患者のもとへ歯科医師が訪問する「訪問歯科診療」が近

年大きな注目を集めている。

吉原歯科医院の吉原正明院長は、1992年から20年以上にわたって訪問歯科診療に注力してきた歯科医師だ。その治療の根底にあるのは、当時も今も「口から食えることを最期まで諦めない」という思いだという。「人が最期まで尊厳を持ったまま生きるためには、食べる楽しみを無くさないことが大切です。単なる栄養の摂取ではなく、自分の口で大好きな食べ物を食べられるようになりたい。その望みを叶えることが本来の目的だと言えます」。その考えのもと、在宅歯科診療の3つの柱である、「むし菌や歯周病などの歯科診療」「口腔の汚れ・細菌を取り除く口腔ケア」「口の機能や嚥下機能を維持するためのリハビリテーション」で、患者が安心して食べられるようサポートしてきた。

### 長期的な視点で本当に必要な治療を

実際に訪問歯科診療を行うに際しては、長期的な視点が求められると吉原院長は訴える。「例えばがんなどの病気では、病気を発症してすぐの段階では治療が中心、治療後はリハビリとケアが中心、終末期ではケアが中心と、ステージごとに必要な医療は変わってきます。それは本来歯科でも同様なのです」として、画一的な診療を行うだけで良しとせず、その時々で患者に本当に必要な治療・ケアを選択することを重視しているという。例えば、高齢の患者がむし菌を発症していても、ほとんど進行せず、食生活に支障がなければ、体への負担や、かめな期間をリスクと考え、積極的な治療を行わないことさえある。そのように長期的に



院長 吉原正明

よしはらまさあき ●1959年広島県生まれ。86年日本大学松戸歯学部卒業。シツキ歯科勤務を経て、90年吉原歯科医院を開業、91年医療法人社団健歯会吉原歯科医院とする。92年から訪問歯科診療を開始

治療を続けるうち、口腔、さらには患者自身の状態も変わるため、その都度評価し、適切なケアを見極めていくのだ。

こうした吉原院長の治療に関する考えは、スタッフにも浸透しており、食べる喜びを感じている患者の姿を目の当たりしつつ、医院一丸となって日々の診療を行ってきた。そして今後、吉原院長は患者の喜びをさらに追求する一環として、食事面も含めたケアも見据えている。「内視鏡などで喉の状態まで確認し、誤嚥を起さないような食材、調理法をアドバイスしていく。そこまで考慮し、一切ストレスなく食べられることを目指すのもこれからの訪問歯科診療には求められるでしょう」と、医師との連携も含め、最善の方法を模索しているという。

取材／鈴木健太